

第3回蒲郡市公共施設マネジメント実施計画策定会議での 意見についての対応及び考え方

番号	意見	対応・事務局としての考え方
1	目標設定について、人口減は25.9%だが床面積の縮減目標は3割である。根拠をもってその理由を説明できるようにしておいた方がよい。	目標の設定にあたっては、人口減少の要素と財政的な要素の2面で考えています。財政的側面から考えると単純計算では約5割の削減を実現しなければならない現実があります。ここに長寿命化などの対処策で得られる効果を考慮した検討を行い、結果として3割の縮減量が必要であると判断しました。
2	収入確保の観点から、サービス料（使用料）の引き上げという考え方はあるのか。	2-2-2(5)「受益者負担の適正化」で、新規有料化や使用料の適正化を行うことを記しました。
3	統廃合跡地・未利用資産の売却・賃貸、市有地の住宅地への誘導による人口増加による税収増など収入を上げていく方策を検討するべき。	2-2-2(2)「市有財産の有効活用」で、売却等で私有財産を有効活用することで、まちの活性化や生み出す便益・収益の最大化を図ることを記しました。
4	（「実行力」について）役所内の手続きであれば早急にできることではないか。	実行体制を明確にすることで、実行性が確保されると考えます。第5章に実行体制を記載しました。
5	民間との連携は空いた土地・建物を活用するなどだけでなく、もっと攻めの姿勢でいくべきなのではないか。蒲郡市と縁が深い企業とタイアップして、お互いがさらに収入アップできる施設をつくっていくなどしたらどうか。	2-2-2(3)「民間活力の活用」に民間企業からの事業提案を積極的に受け付けることを追加しました。

番号	意見	対応・事務局としての考え方
6	竹島水族館は老朽化した建物なのに来訪者がきて採算が乗ってきたようだ。さらに道の駅を竹島に作るなど投資をしてお金を落としてもらうようにすべき。庁内で関連のセクションと調整してほしい。	竹島の観光地としての魅力を増進することは市民の皆様からたくさんの意見を頂きました。 2-2-3(2)①「まちの核となるエリアの施設整備」の文章で、観光地としてにぎわいと活力を向上させることを記載しました。
7	竹島はたくさんの観光客が来るようになった。道の駅を作ると、お金を落としてもらえる。	6番と同じ
8	竹島は市のふるさとであり誇りでもある。減らしていくという議論になりがちだが、減らしても仕方がないと思えるような未来を見据えて明るい気持ちになるような取り組みが欲しい。濁った水をかき回すのではなく、新しい水を入れる議論をして欲しい。あるところをよくして、他方では我慢するというこにしたい。	将来を想定して、これから蒲郡を背負っていってもらう世代に大きな負担を残さないように回避する策が公共施設マネジメントです。平成27年度には市民の皆様と一緒に公共施設のあり方を考えて「魅力」が必要だというご意見を多くいただいたことから基本方針5つの柱に「魅力」の項目を設けています。量を減らしながら魅力を増すという困難な課題ですが、将来、蒲郡に住んで良かったと思っただけの施設再編を目指します。
9	蒲郡市の担当課や施設管理の職員は、危機感を持っているのか。市民に負担のしわ寄せが行くことをどう認識し、また市民のニーズをどこまで本気で聞こうとしているのか。	職員の危機感醸成や事態の認識はマネジメント事業を進めていく上で大変重要な要素です。意識改善のために平成25年より継続的に職員向けの研修を実施しています。また、ニーズの取り込みについては、基本方針作成時より実施してきました。今後は全庁体制で公共施設の再編に取り組み、住民と協働の中でより良い施設作りを行います。
10	大きな土地が空くのなら庁内一丸となって、企業誘致に動くなどしたらどうなのか。	3番と同じ

番号	意見	対応・事務局としての考え方
11	「株式会社がまごおり」として経営感覚を持って取り組みを進めて欲しい。サービス料の値上げという話が先ほど出てきたが、安くて生活しやすい市であって欲しい。	サービス料とは使用料にあたるものですが、適正な使用料を定める上で値上げもあり得ると思います。値上げ前提の議論ではなく、まず、公平な使用料のあり方の議論が必要です。
12	たまたま保有している財産のみをいじることがマアセットマネジメントではない。市の全体の財産を対象に、コスト縮減だけでなく企業誘致など入りの議論、攻めの戦略を、市の職員が危機感や経営感覚をもっていくことをきちんと文言として入れて欲しい。	収入については、2-2-2「効率化」に、危機感や経営感覚については、2-2-5「実行力」に反映させました。
13	施策に関連する部局の名前を計画書に入れて欲しい。具体的に書かないと実行力が担保出来ない。	5-3「実行体制」で、庁内の役割分担を明確化しました。
14	住民のお金でまかなう集会所と公民館の役割は違うのではないか。今後仕分けが必要ではないか。	地区のコミュニティを維持・活性化するために学校区単位の施設が、もっと小さなコミュニティを実現場所としての地区集会所が必要であると認識しています。 3-3-2「公民館」に集会所の機能と連動した公民館の機能を検討する旨を記載しました。
15	高齢化により集会所の役割は大きくなる。高齢者が乳母車をひいて歩いている位置に、避難所としても存続しているべきである。施設には炊事場とトイレが必要である。	集会所と学校区単位の施設との連携で交通弱者等に対応すべきと考えています。
16	公民館活動は無料である。自分も使っており申し訳ない気持ちになることもある。ある程度受益者負担をしていくべきではないか。	受益者負担の適正化は施設のあり方に大きく関わっていると認識しています。2-2-2(5)「受益者負担の適正化」で、使用料等を見直すことを記載しています。

番号	意見	対応・事務局としての考え方
17	<p>受益者が負担すべきと考える人は少ない。公民館のあり方を議論すると有料化の話が良く出るがいつも先送りになる。高齢者が元気であれば、かえって安くつくという意見もある。</p>	<p>受益者負担の適正化を公民館単体で議論するのではなく、公共施設全体で議論することが公平性につながると考えています。維持には税金が充てられていることから、使用料等の受益者負担のあり方を整理することが課題であると認識しています。</p>
18	<p>地区利用型施設について、地区の拠点づくりは結構だが、30年のあいだずっと同じ施設であることはない。市民のニーズが変わったらあり方も変わっていくことを書くべきである。</p>	<p>3-3-1(3)「地区個別計画の策定」で、ニーズの変化に対応するために、個別計画の見直しを行っていく旨を記載しました。</p>
19	<p>全市利用型施設について、計画書全般に明るいところが感じられない。必要な施設は積極的に整備していくことを記載すべき。</p>	<p>8番と同じ。</p>
20	<p>全市利用型施設と地区利用型施設どこが量として大きいのか、圧縮しないといけないのはどこなのかを明らかにすべき。全市型利用施設は重点地区を作ることエリアマネジメントとして明記すべきである。また、計画書には書けないかもしれないが公共施設おしゃれであることが魅力の創出につながり望ましい。</p>	<p>目標達成のために、「全市利用型施設」と「地区利用型施設」の両方を縮減する必要があると考えています。それぞれ手法は異なるものの、目標に沿って保有面積を縮減していく旨を3-1「施設分類」に記載しました。</p> <p>また、エリアについては、市民会議等で蒲郡駅周辺や竹島周辺に機能集約をすべきとの意見を多くいただいています。</p> <p>2-2-3(2)①「まちの核となるエリアの施設整備」についての記載を充実させました。また、蒲郡駅周辺での取り組みについては、第4章のリーディングプロジェクトとして掲げました。</p>
21	<p>縦割りは困る。PDCAサイクルを回して各部署ごとの実績を管理するべきである。</p>	<p>横の連携がこの事業を進めるうえでは重要であると認識しています。実行体制を第5章で示しました。</p>